

資料と公共性 : 2018年度研究成果年次報告書

岡崎, 敦

九州大学大学院人文科学研究院 | 九州大学大学院統合新領域学府 : 教授

市澤, 哲

神戸大学大学院人文科学研究科 : 教授

石田, 栄美

九州大学附属図書館 | 九州大学大学院統合新領域学府 : 准教授

後小路, 雅弘

九州大学大学院人文科学研究院 : 教授

他

<https://doi.org/10.15017/2230688>

出版情報 : 2019-03-14. 九州大学大学院人文科学研究院

バージョン :

権利関係 :

1. キックオフ研究会

日時：2018年9月1日（土）13時30分から

会場：九州大学文学部会議室

プログラム

報告

岡崎 敦 「資料と公共性 ―なにが問題か―」

市澤 哲 「公共のなかの人文学／公共性をつくりだす人文学」

石田栄美 「オープンデータの現代的動向」

後小路雅弘「コメント アートの世界から」

全体討論

共同研究の趣旨と射程について検討し、認識を共有するための研究会を開催した。

「資料と公共性」というテーマ設定、論点について、多様な側面からの状況の整理と問題提起を企図した。最初に、共同研究の基本的なスタンスが研究代表者によって整理されたのち、まず共同研究の中核メンバーである市澤哲氏が、学問の公共性問題それ自体がはらむ課題について、特に人文学に即して論じた。次に、図書館情報学の研究者で、現在、同じく情報管理についての共同研究（科学研究費補助金「挑戦的研究（萌芽）」）を主宰なさっている石田栄美氏より、学問と社会の双方のあり方に大きな変容を促しているオープンデータの動向が丁寧に紹介された。石田科研とは、今年度「オープンデータと大学」と題するシンポジウム開催についても連携した。最後に、現代アジア美術の研究者であるとともに、博物館学芸員の経験も活かした独自のアート・プロジェクトを実践している後小路雅弘氏よりコメントがなされた。

以下は、当日の報告をもとに、各報告者があらためて書き下ろしたものである。特に、後小路氏の論考は、ご自身が近年中心的に関わっている九州大学の記憶、特に肖像画にまつわる企画イベントの紹介としてもお読みいただきたい。

なお、本報告書の後半に置かれた中島康比古氏の論考は、この研究会での報告、議論をふまえて、関係の問題が総覧されたものである。あわせてご参照いただきたい。